

## 「子どもの発達を支える学校・園の役割と、保護者とのパートナーシップ」 資料

白ゆり保育園(岡山市) 副園長 石原 忍

子どもを真ん中に置いて、保護者と学校・園が相互に信頼し合い、手を取り合う。あるべき姿はここに 있습니다。しかし、現実場面では、複雑な要因が様々に絡み合っており、真剣に向き合えば向き合うほど、連携の難しさも浮きだっけてしまいます。

今では保護者向けに、家庭内での子どもへのアプローチ方法や学校・園との連携方法についても広く紹介されるようになってきました。

しかし、単に技術やスキルと言うことだけではなく、保護者や学校・園がどのような思いを載せて取り組むか、その部分が重要になってきます。子どもの発達・成長・幸せにとって、保護者と学校・園のパートナーシップは、なくてはならないものです。今回、そのあり方について、ぜひ皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。

### ① パートナーシップって何？

子どもの自立と幸せを紡ぐ 横の糸 縦の糸

横糸(1年を単位として、教育・行政・医療など各種サービスを直接提供する担当者の連携と専門性)

縦糸(長期にわたり主体者である子どもを尊重し、寄り添い続ける営み)

パートナーシップ = 子どもの幸せと成長を共通の目的とし、相互に連携する対等な関係

- ・ 特別支援教育はシステムの時代から、臨床・実践の時代へ
- ・ 障害を指摘するだけでは、結果的に子どもを疎外することに
- ・ 欧米でインクルージョンが進んだ社会的な背景
- ・ 何でも屋では、学校・園はつぶれてしまう
- ・ 役割分担と環境設定 これぞパートナーシップの目指すところ

## ② みんなと共に過ごさせたい・育てたい(家族の切なる願いとは)

紙切れだけで決めないで・・・	公平なのは大切だけど・・・
一度もトライしていないのに・・・	上から目線に耐えられない・・・
みんなと同じことに挑戦させて・・・	態度がころっと変わってしまう
甘えさせずに、やらせてほしい・・・	担当者による微妙な温度差・・・

上のコメントは私のところに届く保護者の方々からの切なる思いの一部です。

このように子どもに行き届いた支援をと考え、関係機関や特別支援学級を勧めても、結果として子どもや保護者の皆さんを傷つけてしまうこともあるのです。

保護者の見栄や無理解というケースがまったく無いとは言えません。ですが、少なくとも私がかかわった保護者の方は、それこそ命がけの思いでお子さんの学や育ちに向き合った方々です。

もし人数が少ないだけで、あるいは特別支援学校教諭の免許がある先生が指導をただけで、それぞれの子どもの特性に応じた教育ができるのなら、そんなに簡単なことはありません。肝心なのは、決して枠組みだけではなく、中身であることを忘れてはなりません。どこで学ぶかは重要ですが、その中身の方が何倍も重要なのです。

世界の潮流がインクルージョン(統合教育)であるのに、日本の特別支援教育のスタートが、障害特性の発見にシフトされすぎて、選り分ける→排除する方向になりやくなっていることを、私はとても残念に思っています。

私の経験では、例えばAD/HDの子どもは、方向性のある生き生きとした集団であれば、個別指導でSSTをするより、うまくいくケースが多いように思います。集団にはすばらしいダイナミズムがあるのです。子どもの認知特性を理解すると同時に、まずはここに着目した指導・支援の工夫が必要ではないでしょうか？それに、個別指導がうまくミックスしていけば最高です。このことはAD/HDだけでなくLDやPDなど多くのケースに当てはまると考えています。

あまりにも多くのことを学・校園が抱え込んでいる現状を、多く見かけます。学校・園では、集団で子どもを育てるといった専門性でこそ勝負していくべきです。

## ③ 集団の中でこそ育つ 子どもの力 (学校・園は集団で学ぶ場)

- ☆ 子どもの心をリードするわかりやすさ  
(明確な場の設定・指導の一貫性・自信・達成感・評価・支え)
- ☆ 子ども集団でこそ培われる社会性  
(子ども集団 = 教育的な構成 生きた集団 厳しい集団)
- ☆ コミュニケーション → 技術＋必要感  
(言葉の教室 → 相互のコミュニケーションを楽しむことのできる集団)

私の保育園(岡山市)は、大阪から音体の先生を定期的に招いています。交通費や謝礼などかなりの金額を経費として計上していますが、それをして余りある見事な指導ぶりです。厳しいけれど、気合いも入っていれば、何と言ってもそのできばえが見事です。

自閉症と診断された太郎君は、言葉によるコミュニケーションが苦手なタイプの子どもです。さて、この厳しい指導でパニックになるかと思いきや、みるみる和太鼓の演奏で自信をつけ、卒園間際にはみんなの前で堂々とマイクをもって発表できるようになり、みんなを感動の渦に巻き込みました。

ここにあったのは、この先生の「明確な場の設定・指導の一貫性・自信・達成感・評価」でした。

学校・園は、集団で学ぶ場なのです。特別支援学級や学校でも、人数は少ないけれども集団で学ぶところです。人数が多い少ないということではなくて、集団としての機能を充実させることで、支援の必要な子どもも安定してきます。社会性やコミュニケーションの力も向上していきます。この部分こそ学校・園にしかできないすばらしい機能ではないでしょうか？そこをベースにした上で、保護者や関係機関、地域や社会教育、専門機関との連携を構築していくべきだと思います。

いくつかのケースに接してきましたが、学校・園は結果を出せないと、なかなか保護者の信頼を勝ち得ることがむずかしいようです。だったらまず、攻めるのならこうした部分ではないでしょうか？こういった学校・園の得意分野で信頼を勝ち得てこそ、次のステップが見えてくるのではないかと思います。それぞれの学校・園の特色や伝統、あるいは、これまで先輩方が培ってきた日本版の保育や教育をベースに、さらに研究や工夫を重ねて、堂々と王道を行けばよいのです。医療でできないことが、教育でできることがあります。

小手先の方法だけに目をとられないで、自分たちののスタイルに、発達の知識やスキルを生かす。これが私たちが「方法に載せる思い」となって子どもに響いていくのです。

#### ④ 主体者としての保護者

改善に向けた決意とスキル	使命感 自己統制能力	前向きな気持ちや態度	肯定的な自己理解
決断力	自分を奮い立たせる気持ち	自己有用感	自己を客観視できる力
課題解決力	課題に対する前向きさ	状況を把握する力	自己の長所の気づき
情報収集力	自己評価力	共有できる喜び・感謝	自己の役割の自覚

Self-Determinationの概念から

何もかもを学校・園に丸投げして、いちいち文句ばかり言っても、子どもはちっともよくなりません。私のブログにコメントをくださった「ごまたろうさん」は、お子さんの認知面の特性を以下のように個別指導の先生に伝え、効果を上げたそうです。

～第一回目の個別指導が終わりました。「漢字って意外と簡単だねえ～」が娘の第一声でした。目で見て写すだけでは正確な字は書けないこと、同じ字を何十回書いたからといってそれは本人にとっては何の得にもならないばかりか、非常に苦痛な作業であること、聴覚刺激が有効であることなど個別指導をして下さる先生と数回打ち合わせをもち、理解していただきました。私が自宅で実践している方法もお教えしました。ちなみにうちは漢字を部分、部分に分けることで視覚認知を容易にし、聴覚刺激でサポートする方法をとっています～

望ましい子どもの発達に向けて、保護者と学校・園とのパートナーシップは不可欠です。そもそも、生涯にわたって子どもの成長に寄り添う保護者抜きに、支援計画も教育計画も立てられるはずはありません。

すべての保護者が、「ごまたろうさん」とまったく同じようなことを、ということではありません。子どものことを他人任せにするのではなく、是非とも主体者として子どもの学びや育ちに向き合ってほしいと思うのです。

④の表は、保護者として備えたい力を構造的にとらえたものです。支援を必要なお子さんの場合、就学に限らず、その環境の構成には、こうした主体者としての保護者の力が必要となってきます。こうした保護者の望ましい自己決定能力を支えることが、保護者支援の本質ではないかと、私は考えているのです。

そして家庭も含め、地域・医療・社会教育施設・民間の教育機関など、有償・無償のあらゆるリソースから、子どもの学舎育ちの環境を構成してほしいと考えています。そうした基盤に立って、学校・園は、子どもの特性を理解した上で、集団で育てるその機能を十分に発揮できるのだと思います。

#### ⑤ 子どもの自立とは（ある保護者の言葉より）

「発達障害という枠組みの中に入り、その狭い枠で安定したとしても、この子が育ったとは思いません。幸せになったとも思いません。環境が変わって安定したのなら、この子が育ったことにはなりません。生きた集団の中で、この子らしさが発揮できてこそ、この子の成長であり、幸せなのだと思います。目先の学力や学歴ということではなく、人間社会の中で、当たり前の人とのかかわりの中で生きていく基本的な力をつけてやりたい。発達障害ということで、何をやっても無駄というなら、この場で死んだ方がましです。私は絶対にあきらめません。何としても、社会の中で、この子らしく生きていけるように、親として、できることはすべてやっていきたいと思うのです・・・力が入りすぎてはいけないと、わかっ  
てはいるのだけど・・・」

⑤は、私が個別に指導をしている花子ちゃんのお母さんコメントです。花子ちゃんは、1年生は通常学級に在籍していましたが、2年生から特別支援学級で勉強するようになりました。医療のサポートもあり、行動面でもかなりの改善が見られました。しかし、特別な環境の中での安定は、大切なことではありますが、それ自体が目的ではないのです。

かと言って、急に通常学級に戻ったり、医療のケアを中止するには大きなリスクが伴います。安定は、成長のための手段であって目的ではないのです。

今、お母さんは、地域の音楽教室に通うことを真剣に検討しています。ここでは、子どもの発達にたいへん理解の深い先生が、日々すばらしい実践を積み重ねています。教育的に意図された同じ2年生の子どもたちの集団活動を通して、きっと思い出深い様々な体験を積み重ねていくことでしょう。学校では、通常学級での学習時間を可能な限り増やしていくように、検討をお願いしています。

どうやらこの辺が、花子ちゃんにとってベストな環境のようです。ここまでたどり着くには、血のにじむようなご家族の苦労と努力があったわけです。療育についても、薬の使用についても、うまく行ったケースとそうでないケースと両方を聞いています。個々のケースに寄り添って、一つ一つを細かく吟味していくことが必要です。学校・園は主体者としての保護者の願いに基づき、お子さんに寄り添う最も重要な存在として、共に考えていく姿勢が重要であると考えています。

## ⑥ 就労に向けた新しい動き(事業者の立場から)

### 肯定的な自己理解 社会性 生活習慣

☆ おかやま発達障害者支援センター 臨床心理士 今出氏 (2008.7.2)

就労には、障害の種別・程度はさほど重要視されない。必要なのは、8時間働くための意欲・気力・体力・生活リズム、そして自分の特性と現実とをすり合わせる力である。

☆ 新潟アルビレックスの中野社長 (2008.7.30)

① うそをうかない (自分の特性・長所・短所を、きちんと受け止め、その上で自分の役割で全体に貢献するという認知の力) ② いいわけをしない (挑戦もしないで、やりもしないで自分で勝手に限界を決めない。苦手な事があっても、必要以上に特別扱いをしたり、甘やかしたりしない) ③ 人の悪口を言わない (集団の中の一員としてのメンバーシップを育てる)

☆ NTN高津部長(2008.8.1)

企業として収益性を重視する。企業の理念や社会的な貢献、イメージなどから考えても、障害者雇用は、十分に取り組む価値のあることと考えている。職員の採用に際しては、それまでの学校や保護者の子どもの自立に向けての熱意や努力の経過が、判断の大きな材料になる。

学校を卒業してからの人生の方が、はるかに長い・・・と、あるお母さんが私に伝えてくれました。

私の保育園の卒園児で、先日しいたけの品評会で県の代表となり、全国大会で上位に入賞した子がいます。障害者としての枠ではなく、一般の栽培農家の方と競ってのもので、それは見事なものです。

⑥に示したものは、この夏に、私がそれぞれの企業の担当者の方の講演を聴いてまとめたものです。

こうなると限られた学校・園の生活の中で、その子にどんな活動や学習の中から、どんな力を育てていかなければならないのか、思い浮かぶような気になりませんか？

私は、支援の必要なお子さんであればあるほど、短所矯正型ではなく、長所活用型の指導で自己イメージを上げていくことが大切だと思います。例えば形の認知が苦手な子でも、聴覚性の入りのいいお子さんがいたら、書き順などは「右・左・はらってちょん」などと聴覚性の支援を加えてみてはどうでしょうか？苦手で単調な、なぞり書きを100回しても、苦手はやっぱり苦手です。それよりも得意な方法をベースに達成感をもたせながら意欲的に取り組ませると、いつの間にか、支援がなくてもできるようになってきます。こうしたマルチセンソリーで、ねらいを焦点化、継続化した取り組みが重要になってきます。

## ⑦ これまでの実践の中から

### 子どものプラスの自己イメージを育む 支援と指導

- (1) すぐ ほめる (即時強化＝手応え・見てわかる評価)
- (2) ちょっと待って ほめる (遅延強化＝内発性を育てる)
- (3) じらして ほめる (間欠強化スケジュール)
- (4) 見え方・わかり方の特性を理解した支援・指導  
こつこつタイプ(継次処理) / 感覚タイプ(同時処理)
- (5) 得意な方をメインにして、苦手なことを補助刺激に(マルチセンソリー)  
(聞く・見る・読む・書く・話す・感じる・動く・・・)
- (6) 子どもにまちがえさせないエラーレス学習
- (7) 最初は支援をたっぷりに (プロンプトフェイディング)
- (8) 最初は予告、2回目は練習、勝負は3回目から  
(脳内ネットワークの形成を意識して)
- (9) ごほうびも段階的に(物→活動→賞賛→自己目標・自己強化)
- (10) 自己の課題となる面の受け入れ (肯定的な自己理解)

応用行動分析の手法を取り入れて

## 理解と支援で解決できる 子どもの問題行動

- (1) 問題行動には、必ず原因がある。  
(そうまでして得たい・避けたい何かがある)
- (2) 問題行動を起こす前には、必ず余震(サイン)があり、事実を整理することによって、かなり予防できる。
- (3) 問題行動を起こすことによって子どもが得ることは、「注目の獲得」「内的な興奮」「事物の獲得」(快刺激の獲得)もしくは、その事からの回避の2種類に整理される。
- (4) 行動を維持させている要因を分析し、それにかわる方法を示し、強化することによって、問題行動は低減できる。

### 積極的行動支援(PBS)の理論をもとに

「子どもの自己イメージを育む 支援と指導」は、個別指導での取り組みを、自分なりにまとめたものです。主に応用行動分析の理論や手法を取り入れています。

コンセプトは、子どもをつまずかせずに目標に導き、達成感とやる気を育てる学習指導です。もちろん内容を厳選し、焦点化しなければ、こんな方法は使えません。しかし、ちゃんと基礎を積み上げることができれば、予想外の発展が見られることがしばしばあります。今後、支援の必要なお子さんの学習指導には、認知特性に応じた応用行動分析による学習指導の手法が、多く取り入れられていくのではないかと考えています。

「理解と支援で解決できる子どもの問題行動」は、積極的行動支援(PBS)の中で、私がエキスだと思ふ部分だけを取り出したものです。

私は長い間、小学校で子どもの問題行動に向き合ってきました。個々のケースに向き合い、真心を込めて対応していくことが基本ですが、それにしても日本の生徒指導や特別活動には、ベースとなる基礎理論が少なかったように思います。

今、私はある自治体の巡回相談を行っているので、よく子どもの問題行動の相談を受けます。基本はケースに寄り添う、ですが、PBSの理論と手法を当てはめると、ほとんどのケースで状況が整理され、解決の方法の糸口が見えてきます。本も出ています。心理学になじみのない方はちょっとハードかも知れませんが、ちょっと勉強すればこれほど役に立つ実用的な理論はないと、私は思っています。

学校・園の専門性として、まずここを、という具体的な内容が必要な時代になっています。

(まとめ)

親として何ができるか、何をすべきか、方法は2つあると思います。一つは、学校教育も含め、子どもにふさわしい教育環境を提案したり、それを実現したりすることです。もう一つは、出来る範囲でよいので、親が、学びや育ちの機能を学校・園と分担していくことです。特に、お子さんの特性を整理して、指導者に伝えるのは、保護者の大切な役割です。丸投げで、文句だけ言っても子どもは育ちません。

学校・園は、あれもこれも全部ということではなくて、集団で育てるという学校・園の基本を見つめ直し、そこをベースにした上での個別支援の方法を模索すべきです。焦点を明確にして結果を出すことが、保護者との信頼感を獲得し、連携を進めていくための最短の道です。

こうした具体レベル・臨床レベルでの保護者と学校・園との連携が、今、必要となっています。

子どもの幸せと成長を真ん中に置いて、相互が独立し、内容的に機能を分担し合う。私は、こうした形こそ、パートナーシップと呼ぶにふさわしいものだと考えています。このことをまとめると以下ようになります。

- ① 学校・園での学や育ちは、本質的に集団としての学びや育ちであり、その機能を生かした場を構成する。
- ② 時間は限られているので、将来の自立や社会参加に目を向け、内容を吟味・焦点化したプログラムを実施する。
- ③ 短所矯正ではなく、長所活用型の指導スタイルを構成していく。苦手な部分については、マルチセンソリーな方法で、アプローチを積み重ねていく。
- ④ 保護者は、自分の子どもの特性を理解し、それを整理して学校に伝える。(アセスメントシートなどの作成) 保護者と学校・園とで指導・支援の方向性を確認し、情報交換をしながら、弾力的にフレキシブルに対応する。
- ⑤ 家庭で出来ることについては、可能な限り保護者が積極的に取り組む。学校園は、最も専門性が発揮できる部分に焦点を当てて取り組む。
- ⑥ 子どもの成長や変化にかかわる情報を共有し、価値を適切に評価することにより、相互の信頼を深める。
- ⑦ 子ども自身の主体性・意欲・願いを中心に置いた学びや育ちの場を構成し、内発性の喚起と自己イメージの向上を図る。

※ 今回お伝えした内容(実践例など)についてはブログで詳しく紹介しています。  
「どの子ども伸びる どの子ども伸びず」 <http://shinobu1.blog117.fc2.com>